

電力設備工事		分電盤の取付け
--------	--	---------

1) 埋込形、半埋込形の取付方法

- a. 鉄筋コンクリートの壁に埋め込むには、一発壁仕上げ（コンクリートを打設しただけの壁）の場合は、箱体をじかに打ち込むが、壁仕上げのある場合は、型枠を使用し、仕上げ材に合わせて取り付ける。
- b. 鉄筋コンクリート打込用型枠の大きさは、一般的には、第1表の寸法でよい。
電線管が型枠を貫通する穴は、コンクリートが入らないよう、隙間を少なくする。
- c. コンクリート打設時の圧力によって、つぶれないよう型枠の大きさによって、補強材を適当に増やす必要がある。また型枠の背面が、内側に弓形になることがあるので、背面の補強も必要である。（第1図）
- d. 型枠の背板、側板にあらかじめ盤の寸法から位置を出して、インサートなどを取り付けて打込んでおくと、盤取付け時に便利である。（第2図）
- e. 電線管の型枠貫通位置を、枠の奥行の中心より、うしろへもってゆくと、壁の仕上げ厚さによっては、盤の奥行よりはずれることがある（型枠の奥行寸法が、盤の奥行寸法にプラスしていることを考慮して、電線管の貫通位置を決めること）。半埋込形で背部の、コンクリート壁厚が十分あれば、配管用のボックスを盤の背部へ使用して、配線処理を施す。この場合、ガータスペースの範囲にあるよう、ボックスを打ち込む。（第3図）

打込み用型枠の大きさ

幅	盤の幅 + 100mm くらい
高さ	盤の高さ + 200mm くらい
奥行	盤の奥行き + 50mm くらい

- f. 盤の奥行が深くて、盤の背部のコンクリートの厚さが薄くなる場合は、背の部分にラス張りを施して、壁の割れを防ぐことが必要である。
- g. 建築構造体の壁に盤を埋め込むことは、開口部ができることになるので、その部分の補強を要するが、壁厚、開口部の大きさなどによって、補強筋サイズ、本数などが異なるので設計者、構造担当者と事前に打ち合わせする。
- h. ブロック壁に埋め込む場合は、大きい盤、重量のある盤は、アンクルなどで架台を組んで取り付けるが、ブロック積みの工程を打ち合わせしておく。また、盤への配管を埋め込む場合は、ブロック積み後、十分な強度が出てから、はつって配管する。

2) 露出型の取付方法

- a. 箱体を取り付けた時に、水平、垂直に取り付けられたか、確かめる。
- b. 取付けの際に良くなじまない場合は、ライナーなどで調整する。
- c. 取付け用ボルトは、必要以上盤内へ出さない。ナットの部分より3山程度出していればよい。ブロック壁の場合は、取付けボルトは、ブロックとブロックの継ぎ目に入れる。そのほか強度のない壁に重い盤を取り付けるには、架台を組んで重量をもたせる。（第4図，第5図）

サンプルにつき図は省略

3) 取付場所および取付上の注意

- a . 湿気、腐食性ガス、ごみの多い場所、爆発物のある近辺などに、取り付けることは避ける。
- b . 耐震壁、外壁には盤を埋め込まない。また屋外に取り付ける場合は防水型とし、配管との接続部からも水が浸入しないよう注意する。
- c . 盤前面のスペースは、最低で 600mm 以上必要である。また盤の幅が 600mm 以上のときは、盤の扉を開けた状態より 100mm 以上のスペースをとる。
- d . 取付け高さは、普通上端 2m 以下、下端 30cm 以上の範囲である。
- e . 取付けには、下げ振り、曲尺、水平器などで、建築基準墨から正確に寸法を出して、図面上の取付け位置に正しく取り付ける。
- f . 盤と接続している金属管の接地線は、盤内の接地端子に確実に取り付ける。